

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-257263

(43) 公開日 平成8年(1996)10月8日

(5) Int.Cl.⁴

B 2 6 B 21/14

識別記号

序内整理番号

F I

B 2 6 B 21/14

技術表示箇所

Z

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平7-90107

(22) 出願日 平成7年(1995)3月24日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 赤坂 耕三

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第1リサーチセンター内

(72) 発明者 岡部 健

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第1リサーチセンター内

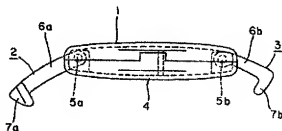
(74) 代理人 弁理士 松浦 恵裕

(54) 【発明の名称】 携帯用カミソリ

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、使用時の安全性と簡便性とを兼ね備え、さらに二種類の異なる形状の刃部を備えた携帯用カミソリに関する。

【構成】 刃部の形状が異なる二種類のカミソリを本体ケース内に折畳み自在に設け、各カミソリは本体ケースから独立した出沒自在となるように構成したことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 刃部の形状が異なる二種類のカミソリを本体ケース内に折畳み自在に設け、各カミソリは本体ケースから独立的に出沒自在となるように構成したことを特徴とする携帯用カミソリ。

【請求項 2】 刃部の形状が異なる二種類のカミソリを本体ケース内に折畳み自在に設け、各カミソリはコンパクト容器型の本体ケースから独立して出沒自在となるように構成し、本体ケースの蓋体を閉めることにより突出しているカミソリの安定保持を図ることができるようにしたことを特徴とする携帯用カミソリ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は携帯用カミソリに関し、さらに詳しくは使用時の安全性と簡便性とを兼ね備え、さらに二種類の異なる形状の刃部を備えた携帯用カミソリに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来知られている携帯用カミソリとして、携帯を考慮して小型化されたものは存在しなかった。また実用に供されているカミソリとしては、カミソリの刃部形状が一種類だけで、その刃部にキャップをかぶせたものが存在していたに過ぎない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 このため、従来のカミソリは携帯に不便であり、また一種類だけの刃部にキャップをかぶせて携帯可能にしたものにあつては、そのキャップの縁が刃部の付近に位置するものであつたため、縁に指先を掛けてキャップを取り外す際に指先をカミソリの刃で傷付け易いという欠点があつた。

【0004】 また腫れりや割れりのようにカミソリの使用対象部位が凹面状であつたり、凸面状であつたりするような場合には、それに対応して凸状又は凹状に形成された刃部を持つ別個のカミソリが要求され、その使用対象部位に対応した二種類のカミソリを揃えなければならぬという問題点があつた。

【0005】 本発明は、上記の問題点を全て解消した携帯用カミソリを提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するために、本発明にかかる携帯用カミソリは、刃部の形状が異なる二種類のカミソリを本体ケース内に折畳み自在に設け、各カミソリは本体ケースから独立して出沒自在となるように構成したことを特徴とするものである。

【0007】

【作用】 本発明では前記の構成を採用したため、不使用時には全体が小型化して携帯性が向上し、かつ刃部が本体ケース内に隠されるため安全性が向上し、使用時には目的の刃部のみがケース本体から突出するため、一つの携帯用カミソリでありながら使用対象部位の異なる箇所

に適切に対応できる。

【0008】

【実施例】 以下、本発明を図面の実施例により具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0009】 図 1 はコンパクト容器型のケース本体 1 に、一対のカミソリ 2、3 を折畳み状に出沒自在に収納し、カミソリ 2、3 をケース本体 1 内に収納後は、蓋体 4 を閉めてコンパクト容器の中に二種類のカミソリを体積良く納めるものである。

【0010】 カミソリ 2、3 は、軸 5 a、5 b を中心に回転して折畳み自在になるもので、不使用時には図 1 及び図 2 の状態に倒伏され、使用時にはそれぞれカミソリ 2、3 を軸 5 a、5 b を中心に回転させて引き起こし、使用すべき側のカミソリのみをケース本体 1 から飛び出させる。

【0011】 一方の側のカミソリをケース本体 1 から突出させた後、蓋体 4 を閉めると突出したカミソリが蓋体 4 とケース本体 1 の端縁部とで挟持されてその状態を安定的に保持し、その結果使用中にはカミソリが不用意に倒伏することはない。

【0012】 なお図 3 及び図 4 は、説明の都合上 2 種類のカミソリがケース本体 1 から同時に突出した形となっているが、実際の使用状況下では、何れか一方のカミソリだけがケース本体 1 から突出することになり、他方のカミソリはケース本体 1 内にとどまる。

【0013】 カミソリ 2、3 は、樑体部 6 a、6 b と、刃部 7 a、7 b との組み合わせで構成され、樑体部 6 a、6 b の根元部がケース本体 1 内の両端部付近の軸受板 8 a、8 b に支持されている軸 5 a、5 b を介して回転自在に係止されている。

【0014】 また使用する側のカミソリ（例えばカミソリ 2）を使用状態側に所定角度だけ回転させると、その樑体部 6 a がケース本体 1 の端縁部に当接して、最も使用し易い角度で停止するようになっている。この状態で蓋体 4 を閉めると前記の通りカミソリ 2 の安定的保持が行われ、使用者はケース本体 1 や蓋体 4 部分に指を掛けながら（必要に応じて、樑体部 6 a、6 b にも指をかけることは可能）、カミソリ 2 を使用することになる。

【0015】 カミソリ 2 の使用が終わった際には、再度カミソリ 2 をケース本体 1 内に納まるように回転させて収納状態とすれば安全な携帯が可能となる。カミソリ 2、3 の収納に際しては、クリック止め等の適宜のストッパー手段（図示しない）を採用してカミソリ 2、3 がケース本体内で変動しないように安定保持を図るようにすることもできる。

【0016】 また符号 9 は、カミソリの引き起こし時に指先が刃部 7 a、7 b に当接するのを防止するための安全用の立設壁である。この立設壁 9 の形状としては、図示の如く平板状に形成してもよいが、刃部 7 a、7 b の

先端形状に対応させて平面形状が凸状又は凹状になるように曲折してもよく、こうすれば無用の隙間の発生を防止することができる。

【0017】カミソリ 2、3 は、棒体部 6 a、6 b と、脇そり（先端が凸状の形状）や腕脚そり（先端が凹状の形状）に適した形状の異なる刃部 7 a、7 b との組み合わせから構成される。刃部 7 a、7 b は、上記の形状に限られるものではなく、随意好みのものが選ばれるが、いずれにしても一対の刃部 7 a、7 b の形状は相互に異なるものとし、使用対象部位の二種類の曲面形状に対応可能となる。

【0018】その結果、本発明の携帯カミソリを一つ準備すれば、カミソリを使う箇所が複数で、それらが異なる形状の刃部を必要とする部位であったとしても、充分対応することができる。

【0019】

【発明の効果】 よって本発明の携帯用カミソリによれば、一つのものを用意するだけで、腋そりや脚そりに対応でき、携帯時にはコンパクト容器型のケース本体内に刃部が隠されるので安全であり、使用時にはケース本体

の蓋体を開けるだけで刃部を簡単にむき出し状にすることができ、また使用時のカミソリの安定的保持も万全であるため使用性にも優れる等の効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明のコンパクト容器型のケース本体に納められた、カミソリの収納状態の正面図である。

【図 2】 同平面図である。

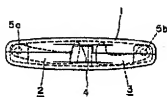
【図 3】 図 1 の実施例において、カミソリをケース本体から突出させた状態の正面図である。

【図 4】 同平面図である。

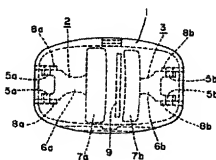
【符号の説明】

- 1 ケース本体
- 2、3 カミソリ
- 4 蓋体
- 5 a、5 b 軸
- 6 a、6 b 棒体部
- 7 a、7 b 刃部
- 8 a、8 b 軸受け板
- 9 立設壁

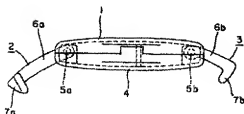
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

